

紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

13



令和2年度 教職実践研究交流会 2020年8月1日

コロナ禍の中、対面開催ができるかどうか直前まで検討した結果、限定的ですが開催することができ、懐かしい修了生の皆さんにも参加していただきました。

今年度は、「学校における危機管理～新型コロナウイルス感染危機への対応～」をテーマに、前半は3分科会に分かれて、各学校での感染危機対応の実際について情報交換を行いました。県や自治体、学校によって取組が異なり、配付資料や写真等を紹介しながら、修了生と院生で積極的な交流が行われました。

後半は、本学の宮崎英一先生(技術教育)より、「学校におけるオンライン授業について」と題した講話・演習をいただき、Zoomを使つてのオンライン会議やホワイトボードの活用等を体験しました。院生にとっては普段のオンライン授業で手慣れた操作であったようですが、修了生にとっては初めて体験する方も多く、「今度は自分がホスト(授業者)役として活用したい」等、とても好評でした。

参加した修了生からは「みんなに会えてよかった」というたくさんの声が聞かれ、今後も修了生と院生が交流できる有意義な研究交流会を開催したいと思います。(山本木ノ実)



全体会の様子

令和2年度の院生さんへインタビューしました

- 質問1 教職大学院に入って感じたこと(よかったこと、驚いたことなど)は何ですか?
- 質問2 教職大学院に入って読んだ本で、印象的な本は何ですか?

▶ 亀井 明子 ◀
(学校力開発コース)

回答1 ◀
自分自身の学校をみる視点が広がった。院生の自主的に熱心に学ぶ姿や先生方との出会いが大変刺激的であった。

回答2 ◀
『学校を変える新しい力』浜田博文 編著
「組織力」は目に見えない「組織文化」によって支えられており、組織文化を変える営みが「学校改善」であると気づくことができた。

▶ 廣瀬 尚哲 ◀
(授業力開発コース)

回答1 ◀
今までの経験による実践を大学院で最新の情報を参考に見つめ直すことで、理論と実践の往還が実感できつつある。先生方と院生の距離が近いことには驚いた。

回答2 ◀
『初等体育づくり授業入門』竹田清彦・高橋健夫・岡出実則 編著
実践における基本的なことの重要性を理論的に再認識することができた。

▶ 三垣 優子 ◀
(特別支援力開発コース)

回答1 ◀
自分自身の視野が広がったこと。授業に演習が多く有り、ただ聞くだけでなく理解が深まり考える癖が付いてきた。

回答2 ◀
『校長の覚悟』『教職研修』編集部 著
教育改革における様々な学校の在り方や実践を通して、多様なリーダーシップの覚悟を感じられた。

教室には多数の児童生徒が集まって、全員が授業に参加します。しかし、児童生徒はそれぞれ個性を持っており、そのままでは授業中のコミュニケーションが円滑に進みません。全員が授業に参加するには、個々の行動の形式をある程度揃える必要があります。児童生徒の行動がある程度揃って規律化すると授業が円滑に進み、授業の成果のさらなる向上も期待されます。

授業中の学習規律に関する指導は小学校の低学年で重点的に行われ、それ以上の学年ではあまり行われない傾向があります。低学年の学級で学習規律が成立すると、進級後の学級でも引き続き学習規律が成立するため、教師が指導の必要性を感じないためと推測されます。

しかし、1990年代以降に学級崩壊の現象が顕在化し、小学校中学年以上の学級で授業中の学習規律が成立しなくなる場合があること、そこでは授業中の学習規律をどの程度重要と思うかの認識に教師－児童間で相違が見られることが明らかになりました。

この問題意識から私は、小学校中・高学年の児童が学習規律をどのように認識し、また、児童と教師の間にどのような認識の相違があるのか、研究を行ってきました。

例えば、小学5年生の1学級に協力を依頼し、質問紙調査を行いました（笹屋・川島・児玉、2012）。その結果、進級・クラス替え後の教師による指導が済んでいると考えられる10月から11月の時期でも、授業中に成立している多数の学習規律のうち複数の学習規律について、どの程度重要と思うかの認識や、なぜその学習規律が成立しているのかという認識について、それぞれ教師－児童間で相違が見られることが明らかとなりました。

この結果から、全員の児童が参加する授業が実現していても、教師－児童間で学習規律に関する認識の相違は年間を通じて潜在しており、児童たちと教師は授業中にその認識の相違から生じるコミュニケーションの停滞にその都度対処すると考えられます。この対処をくり返し、

授業中のコミュニケーションをより円滑にしていくことが、年間を通した学級経営の一過程であると言えます。研究の詳細については、ぜひ参考文献を参照してください。

どのような学習規律が成立するかは、それぞれの教室ごとに大きく異なります。話は変わりますが、新型コロナウイルス感染問題により、大学の授業がオンラインで行われています。教室が変われば成立する学習規律が大きく変わるように、オンライン授業を円滑に進めるのに貢献する学習規律は対面授業とで大きく異なることが予想されます。それは一体、どのような学習規律なのでしょう。

笹屋孝允・川島哲・児玉佳一。(2012). 教師と子どもの「授業ルール」認識のズレの特徴と、その解消：小学校高学年の学級における質問紙調査と授業観察から. 東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション研究プロジェクト」, pp.109-137.

おめでとうございます！ 修了生と院生の嬉しいニュース

修了生(3期生)の赤井真三子さんが、教職大学院で学ばれたことを生かして、フォローアップ・プログラムや日常に取り組まれた実践研究をまとめられたことが評価され、令和2年度の教育実践優秀教員として、11月2日に表彰されました。3日の四国新聞等でも紹介されていました。タイトルは、「中学校の英語教育におけるオリエンテーション授業の実践～小学校の英語教育との円滑な接続を目指して～」です。

現院生の大野明子さんが、公益財団法人教科書研究センターの「大学院生の教科書研究論文助成」に採択されました。本助成事業は、教科書等の質的向上と充実を図るため、我が国における教科書等の改善に関する調査研究の推進を目指して大学院生による研究論文作成に対して行われる助成です。本年度は全国から34件の応募があり、14件が採択されました。大野さんの研究テーマは、「中学校道徳科の教科書にみられるいじめ問題の記載に関する基礎的分析」です。

今後の大学院説明会および入試日程のご案内

今年度は大学院説明会を、教職大学院ホームページ上にて動画等による紹介でさせていただきます。随時、閲覧可能です。個別の質問等があればフォームを用意しておりますのでご連絡ください。入試の詳細につきましては「学生募集要項」でご確認ください。学務係で配布しております。また、大学院教育学研究科ホームページでもご案内しておりますので、あわせてご覧ください。

C日程

出願期間：2021年1月4日(月)～12日(火)
学力試験日：2021年1月23日(土)